2020 年 5 月 8 日

2019 年度 ALL DOSHISHA 共修プログラム
実施プロジェクト成果報告書

プロジェクトタイトル
派遣留学生を増やすためのプロジェクト

プロジェクトメンバー			
役職	氏名	学科専攻	学年
リーダー	松尾寧々	化学システム創成工学科	B2
サブリーダー	大江志茉	化学システム創成工学科	B1
	金中茜	環境システム学科	B2
	Mischa Aleksej Krueger	電気電子工学専攻	M1

支出経費			
支出項目	単価（円）	数量	小計（円）
周知用ポスター印刷代			
A0 サイズ	500	3	1,500
A3 サイズ	80	32	2,560
謝礼			
QUO カード（説明会・相談会協力謝礼）	2,000	3	6,000
QUO カード（説明会協力謝礼）	1,040	4	4,160
USB メモリ（説明会協力謝礼）	980	3	2,940
パンフレット印刷製本代	132	1,000	132,000
		合計	149,160

プロジェクトの目的と狙い

派遣留学に興味を持っている学生は多く存在するが、実際に留学する学生はそう多くはない。理由として、多大な留学情報を上手く収集、利用できていないことが挙げられる。大学が主催する留学説明会では、留学制度の詳細や注意点などが主な内容であった。しかし、留学をするかどうか迷っている学生の視点から考えると、他にも知りたい情報があるのではないかと考えた。そこで、学生視点で知りたい留学情報を発信することで留学への第一歩を踏み出してもらうことを目的とした周知型セミナーと、より詳しい留学情報を得たい学生を対象とした留学相談会を開催することにした。セミナーでは、留学経験者が実際どのようにして留学情報を収集したのか、留学先の大学での生活の様子や授業風景、履修科目などを紹介した。さらに、参加者以外の学生にも興味をもってもらうために、セミナーと相談会の内容をまとめた冊子を作ることにした。

プロジェクトの実施内容（１ページ以上）
●取り組んだ実施内容を時系列にかつ具体的に記入してください。 ●誰がどのような役割で何をしたかも分かるように記入してください。 ●適宜、取組状況の画像データを貼付いただいても結構です（様式の半分以内の分量とします）。

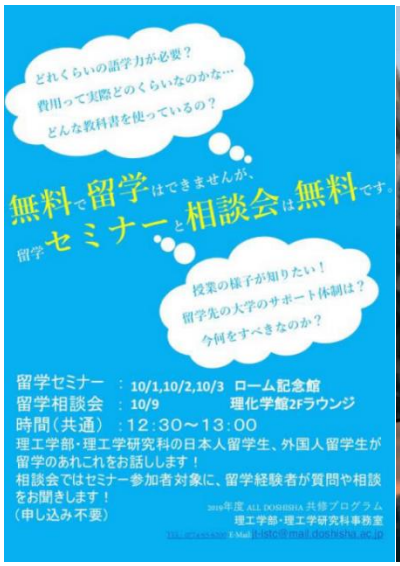
6 月にグループのメンバーと対面し、「日本人留学生を増やす」というプロジェクトの目的を確認し、達成するための方法を考えた。その方法として、セミナーと留学相談会の開催を決定した。前者は留学についての情報周知のために、後者は留学に興味を持つ学生からの相談や質疑応答に答えるために開催することにした。また、セミナーと相談会の構成を練った上で、ダブルディグリー制度で協定校から来日した外国人留学生 3 名と、協定校に派遣留学の経験がある日本人学生 3 名に講演を依頼した。協力者である留学生には、このプロジェクトの目的と留学セミナーで話して頂きたい内容を具体的に説明した。7 月に協力者から送られてきた留学先での写真を用いて大江がローム記念館の劇場空間で流す宣伝動画を作成した。また、留学セミナーの効果を測るために、金中、Krueger でセミナーと相談会で配布するアンケートを作成した。具体的な質問事項として、セミナーの満足度とその理由、来場のきっかけ、興味のある留学、留学志望度、セミナーで印象に残ったこと、もっと知りたかったこと、相談会への参加の項目を設けた。また、松尾、大江で告知のためのポスターを作成した。金中がローム記念館に宣伝動画放映の許可を得るための書類を作成した。そして、理工学部事務室でポスターを印刷し、ローム記念館・知真館・理化学館・紫苑館に合計 100 枚程度掲示した。セミナー開催 1 週間前の 9 月 24 日からローム記念館で宣伝動画の放映を開始した。また、理工学部事務室からセミナー・相談会開催の旨を、派遣留学メーリングリストに登録している学生にメールで配信した。セミナーで実際に使うスライド資料を印刷して、セミナー参加者に配布できるように準備した。

10 月 1 日～3 日の昼休み 12:30～13:00 にローム記念館の劇場空間でセミナーを開催した。セミナーの内容は、留学にいたるまでの経緯や留学先での生活、留学費用、留学経験から学んだこと、留学先の協定校の紹介であった。1 日目はエコール・サントラル・リール（ECL）に留学経験のある井上拓也さんとスペインのマドリッド工科大学からの留学生である Alvaro GUZMAN BAUTISTA さんに講演をしていただいた。外国人留学生のサポートを Krueger 、司会を松尾、金中と大江でアンケートを配布、回収した。2 日目は エコール・サントラル・マルセイユ（ECM）に留学経験のある植山賢一さんとスペインのマドリッド工科大学からの留学生である Marta PEREZ PEREZ さんに講演をしていただいた。外国人留学生のサポートを Krueger 、司会を金中、松尾と大江でアンケートを配布、回収した。3 日目はエコール・サントラル・ナント（ECN）に留学経験のある松本匡平さんとスペインのマドリッド工科大学の Alvaro QUILES GARCIA さんに講演をしていただいた。外国人留学生のサポートを Krueger 、司会を大江、松尾と金中でアンケートを配布、回収した。さらに、現在 ECL に留学中の村尾将さんが留学生活をレポートする形式の 6 分程度の動画を上映した。セミナーでは、3 日間で合計 100 枚のアンケートを配布し、合計 33 枚のアンケートを回収した。途中で退席した学生を含めると、セミナーの参加者は三日間で合計 50 人ほどであった。また、翌週の留学相談会の告知も行なった。

同月 9 日の昼休み 12:30～13:00 に理化学館 2F ラウンジで留学相談会を開催した。電

子黒板にパワーポイントを表示するなどの準備を金中、 Krueger で行った。セミナーに参加できなかった学生のために、松尾がセミナーで使用したスライド資料を配布した。セミナーでも講演して頂いた井上さん、植山さん、松本さんに加え、ECL に留学経験のある塩見健太さんに相談役として参加して頂いた。参加者は 9 名であった。相談内容は、大学院での留学はどのようなものか、留学にかかる費用はどのくらいであるか、協定校の授業のレベルはどのくらいであるか、留学をするのであれば、1 年間か 2 年間かどちらがいいのか、現地の言葉はいつ頃から話せるようになったかなどであった。また、参加者が相談したい内容に合わせて、それに適した相談役の留学経験者を紹介し、必要であれば席の移動を行った。11 月に中間報告会の資料を作成した。その後、12 月 10 日に中間発表に向けてアドバイザーの山本先生からご指摘いただいた後、同月 12 日に中間発表を行なった。そこでは、今までの活動報告とアンケート結果など成果報告を英語で発表した。

中間発表終了後、1 月に活動報告書を作成し、2 月～3 月上旬にセミナーの内容をまとめた冊子を作成し、冊子には 2 つの QR コードを記載した。1 つ目はセミナー内で上映した留学先での動画を再生出来るように、2 つ目は共修プログラムのホームページにアクセスできるようになっている。Krueger が冊子のデザインを、松尾、金中、大江が本文を担当した。印刷は理工学部事務室を通して業者に委託した。3 月 30 日に業者から完成した冊子が届き、4 月初旬に入学の書類と共に新入生に冊子を配布した。また、最終成果報告のための資料を作成した。金中がプレゼンテーションのためのスライド資料を、松尾、大江が最終報告書（日本語版・英語版）を、Krueger が最終報告書（英語版）の添削を担当した。



プロジェクトの成果（１ページ以上）
●当初計画していた達成目標と比較して成果を記入してください。 ●プロジェクト開始時からどのような能力が向上したかを記入してください。 ・グローバルマインドの３要素（①グローバルな視野、②多様性の尊重、③異文化理解） ・社会人基礎力の３つの能力と１２の能力要素　①前に踏み出す力（主体性／働きかけ力／実行力）②考え抜く力（課題発見力／計画力／創造力） ③チームで働く力（発信力／傾聴力／柔軟性／情況把握力／規律性／ストレスコントロール力） ●当初計画していた目標に至らなかった場合は、①何が実施・実現できなかったのか。②その要因は何か。③考えうる解決策　を具体的に記入してください。
当初の達成目標は、留学セミナーの開催と冊子の配布によって(1)留学に興味がある学生が留学の情報を探すきっかけを見つけること、(2)留学に対して不安を抱く学生が留学後の自分を具体的に想像できること、(3)留学に興味がない学生が留学に関心を持つこと、セミナー後の相談会によって(4)留学に不安を抱く学生がその不安を解消すること、の４つの成果を得ることであった。 まず、留学セミナーでは留学経験者が留学を決意した経緯、協定校や利用した奨学金の情報を発信したので、これ自体が(1)で記載した「情報を探すきっかけ」になったと考えられる。しかし、日本人留学生３人全員が２年間フランスへ留学、外国人留学生３人全員がスペインの同一大学出身であったので、協定校の紹介に偏りが生じてしまった。当初は、様々な国への派遣留学生の増加を目的としていたため、その点においては達成が不十分であった。留学時期の関係で協力を得られなかったことが原因であった。計画の段階でこのような可能性を考慮する必要があった。 (2)については、留学セミナーで放映した動画により、十分目標を達成できた。これはセミナーのアンケート結果で、動画を視聴したことで留学先での生活を詳しく知ることが出来た、などの声が複数あったことから判断できた。 またアンケート結果から、セミナー受講前は留学に全く興味がなかった学生の割合が受講後には減少し、少し興味がある学生の割合が増加していたことが分かった。ローム記念館の劇場空間でセミナーを実施した狙いは、少しでも多くの学生に留学に興味を持ってもらうことであった。実際は狙い通り、通りすがりの学生が足を留めて傾聴している様子が多くみられた。このことから、(3)の目標は達成できたといえる。しかし、その成果を確認するためのアンケートの実施において、学生に配布したアンケートの数よりも回収した数は圧倒的に少ないという課題が残った。アンケートへの回答を面倒感じる学生が少なくないこと、セミナーの実質の参加者が少なかったことが原因として考えられる。解決策としては、手軽にアンケートに回答できるようにする、早めの時期から宣伝を行う、宣伝方法を改善することが挙げられる。 相談会は留学に興味を持つ学生を対象としたので、学生は留学経験者に直接に相談・質問をしたことで、不安を解消できたと予想できる。相談会で配布したアンケートに(4)の成果を確認できる項目を設けていなかったので、学生の不安をどの程度解消できたのか、結果として得られなかった。 １年間、このプロジェクトに携わったことにより、私たち自身の様々な能力が向上したと感じている。私達の班活動は週１回以上のランチミーティングに加えて、頻繁に活動や

連絡を取り合っていたので、1年前と比べてチームとして働く力は大変向上した。私達の活動では、留学セミナー・相談会の司会進行や宣伝、中間報告会での発表、冊子の作成など、物事を発信する場面が多々あった。私たちの考えを簡潔かつ明確に相手に伝えるためにはどうすればよいのか、そのための手段や方法を皆で議論し、実行に移した。例として、冊子を作る際、文章では伝わり難い情報を発信するために、ＱＲコードを作成したこともあった。このことから、発信力だけでなく、創造力や実行力も向上したと考えられる。

また、留学セミナー・相談会の開催準備、宣伝用ポスターと動画の作成、冊子の作成など多岐に渡る活動であったので、計画を立てることが何よりも重要であった。完成から逆算し、達成率 120% 程度を目標に設定することで、大幅にずれが生じることなく計画を進めることが出来た。しかし、計画を進めていく中で、解決しなければならない課題がいくつも生まれた。そのときは、皆で納得のいく解決策が見つかるまで話し合いを重ねた。1年間、この工程を繰り返しながら進めてきたことで、計画力と課題解決能力は確実に向上した。

活動内容の要である留学セミナーと相談会では、留学経験がある日本人学生や外国人留学生などの多くの協力者を必要とした。留学セミナーの参加者に留学先での生活の様子を動画で伝えるために、海外に留学中である日本人学生に動画の撮影をお願いした。しかし、直接会うことが出来ない状況で、メールでのやり取りのみで動画の完成予想図を説明し、企画の趣旨に理解を得ることは困難であった。多くの人々に協力を得るためには、働きかける力の重要性を身にしみて感じた。

留学セミナーの打ち合わせの際に、私達は留学経験者から留学体験談を聞くことが出来た。どの方の話も新鮮で興味深く、留学によってグローバルマインドの 3 要素を身につけたということが分かった。私達はこの能力が向上したかは定かではないが、これからの学生生活を通じて留学経験者のように、この能力を伸ばしていきたい。また、私達の班は日本人学生が 3 人、外国人留学生が 1 人で構成されているが、より多くの外国人留学生と活動することが出来れば、異文化理解をより楽しむことが出来ると思った。

今後期待できる成果の波及効果（１ページ以内）
●今後、成果物を大学がどのように活用することが望ましいかを記載してください。 ●成果物をさらに波及するための考えうる取り組みを記載してください。
作成した冊子は理工学部事務室にも設置するため、留学の相談に来た学生に参考資料として活用することが望ましい。また、共修プログラムの宣伝材料としての活用も期待できる。 成果物をさらに波及するために４つの取り組みが考えられる。 １つ目は、留学セミナーをテーマ別に開催することである。今回は第一弾として、学生が知りたいであろう情報全てをまとめて発信した。しかし、今後は 1 つのセミナーで 1 つのテーマを扱い、複数種類のセミナーを開催することで、学生は自分の目的に沿ったセミナーを受講し、より詳しい情報を得ることが出来る。テーマは、協定校、奨学金、出願から留学までの流れなどが例として挙げられる。 2 つ目は、協定校に通う学生と繋がりを持つことである。具体的な活用法としては、留学セミナーや相談会で、テレビ電話を用いて学生が協定校に通う学生に直接質問できる場を設けることである。特に、日本語を学んでいる外国人学生や日本人留学生とも繋がりを持つことで、幅広い活動が期待できる。 3 つ目は、ストリーミング配信を利用して学生が海外の授業を体験出来るようにすることである。日本の学校では、新入生に対して体験授業を行うことがある。同様に、留学前に動画で協定校の授業を体験できるセミナーを開催する。学生が留学先での授業内容や様子を知るための最も良い手段である。私達が留学セミナーで放映した動画が効果的であったように、動画を用いて視覚に訴えることは非常に効果的であると考えられる。 4 つ目は、学生が必要とする語学力を確認するための簡単な会話テストを作成することである。アンケートの調査結果から、語学力が不安で留学を躊躇している学生が複数いることが分かった。これを受けることで語学力に自信をつけてもらい、学生の不安を解消することを目的としている。